



和朝
今昔物語

卷之八
正俗部

八
教原



今昔物語部 八月録

○世俗傳

- 一 平維衡同致頼合我蒙外語
- 二 多田滿仲家盜賊入語
- 三 左衛門尉平致經導明尊僧正語
- 四 平貞盛射殺盜賊語
- 五 平貞道有遠慮語
- 六 上總守維時郎等大紀為小侍被害語



今昔物語部 仲觀

古今昔物語 倭部八

○世俗傳

一 平維衡同致頼合戦家咎語

今いひむ。第一の系院乃清定以下野守平維衡

系圖曰帶刀上総介 權少將從四位下 やい兵あり。これ陸奥守貞盛と

いひる兵乃孫也 又其母平致頼

公雅男の世以致頼維衡 頼信保昌稱武勇無雙 といふ兵あり。これに兵の

道孤いふあひる向き。いよあさか。ま。さ。り。す。り

者いありて。款とありぬ。をのく領國より。致頼

い。維衡をう。ん。と。ゆ。合戦を

古今昔物語(才)

其時長元

合戦を

此及びて子孫伴數郎等着居計能る者甚る
 ちんはも勝負いまざりては。ける朝延みせえ々純
 維衡をい九場門の府ら場は被下。致頼をい右場門
 の府れら場は被下。ともは勅向き。終りに皆す。て
 びり。落れあふ。をのくき。とけらるふ。さ。い。ま。る。と。
 明は勅りてい。く。れ。さ。い。い。ん。と。し。ら。致頼が罪。尤
 かり。す。ま。や。ふ。き。た。と。ろ。み。か。ら。と。ぐ。清。き。と
 う。い。ら。維衡が罪。う。り。郷。と。極。一。年。を。り。じ。に
 ゆ。さ。る。ん。と。さ。う。と。い。ま。よ。ら。て。公家宣旨。弘。く。さ。し。ま。
 致頼をい遠く隠岐國。へ。流。され。維衡をい淡路國。へ

致頼き。ま。ぬ。う。の。ら。又。右。京。致。忠
 右京大夫右馬権頭
 從四位下。元方男
 也。の。者。員。淡。國。の。途。中。て。前。相。模。守。攝。輔。政
 從四位
 前守。廣
 相男。い。の。者。乃。子
 輔政有二子。嫡子曰。惟
 通二男。曰。好。政。何。歟。あ。い。の。郎。也。
 ともは射。ら。と。され。よ。ら。て。又。輔。政。み。ち。や。あ。い。ら。
 け。え。り。極。宣。旨。弘。く。さ。し。て。檢。非。遠。使。を。使。射
 藤。貞。忠。親。未。考。右。場。門。志。縣。犬。養。為。政
 犬養姓。神。龜。命。
 十九世孫。田。根
 連。之。多。公。の。國。う。と。さ。し。は。つ。い。て。幸。の。ね。ら。る。り。
 後也。助。人。向。あ。み。致。忠。と。し。ん。で。替。み。清。々。れ。べ。罪。名。と。勅
 へ。ら。ま。て。明。は。り。め。ま。さ。ら。て。致。忠。弘。く。さ。し。佐。後。兩
 兵。を。さ。し。め。たり。さ。ら。と。い。ひ。あ。い。の。郎。と。か。れ。

はひれきありとらん。語けさるるや也

二 多田鑑仲家盗賊入詔

今しひく。天徳四年五月十日の夜強盗し。武屋
 持守源満仲の宅中入り。満仲おとあつと。一人
 射依くんとおと。倉橋弘重とつと者たり。満仲
 弘重母同敷をとりて中勢の親王第二男親繁
 及宮内元中長良村土佐持守蕃基等公に
 検非違使右衛門志錦文明番内して奏聞。中勢
 親王に家人としていづく。件の孫王今曉親王の家



今昔物語五の印刷

其の同敷紀近輔申は良村等が所領あり
多岐事の下りと親王に告げられた親王よりけりといふ。男
親盤目ころねりて痲病をわづらひて此家内より起
居よきくび平安に入るといふ。あつとて下りやちり
宮者ふしり多岐。官人等依はりて同敷はもがくと
さくらのしほむ親王の家内よりけり。はわよ一人とさく
得と成子に親王に家内よりあつて紀近輔をわづら
ふ。近輔がいく。親盤王は首を後仲の家より入るとい
まふ。実かり。さくらのしほむの親盤王はけりある
べと。勅曰親盤が。外よりさくらぬうらむいてわづらるべ

ゆかり。そののらさく人得たりといふこと。志きばともん語
けりえさくとも也

三 左衛門尉平致経導明尊僧正語

今昔宇治殿のゆえにねりてはくけり。三井の
明尊僧正清いものりて夜ぬ入りて居り終り。おんらに
強心宿よりくそ。教乃内ぬある事の方をいへ。清殿
よそよのねりてせざり清馬よのせり。くさねに定
り。此道をねりてさくもの。けりあるや尋させぬ
たし。左衛門尉平致経 男 致頼 作りてたし。殿い
り作り終りてはけり僧正の。後部よりて者

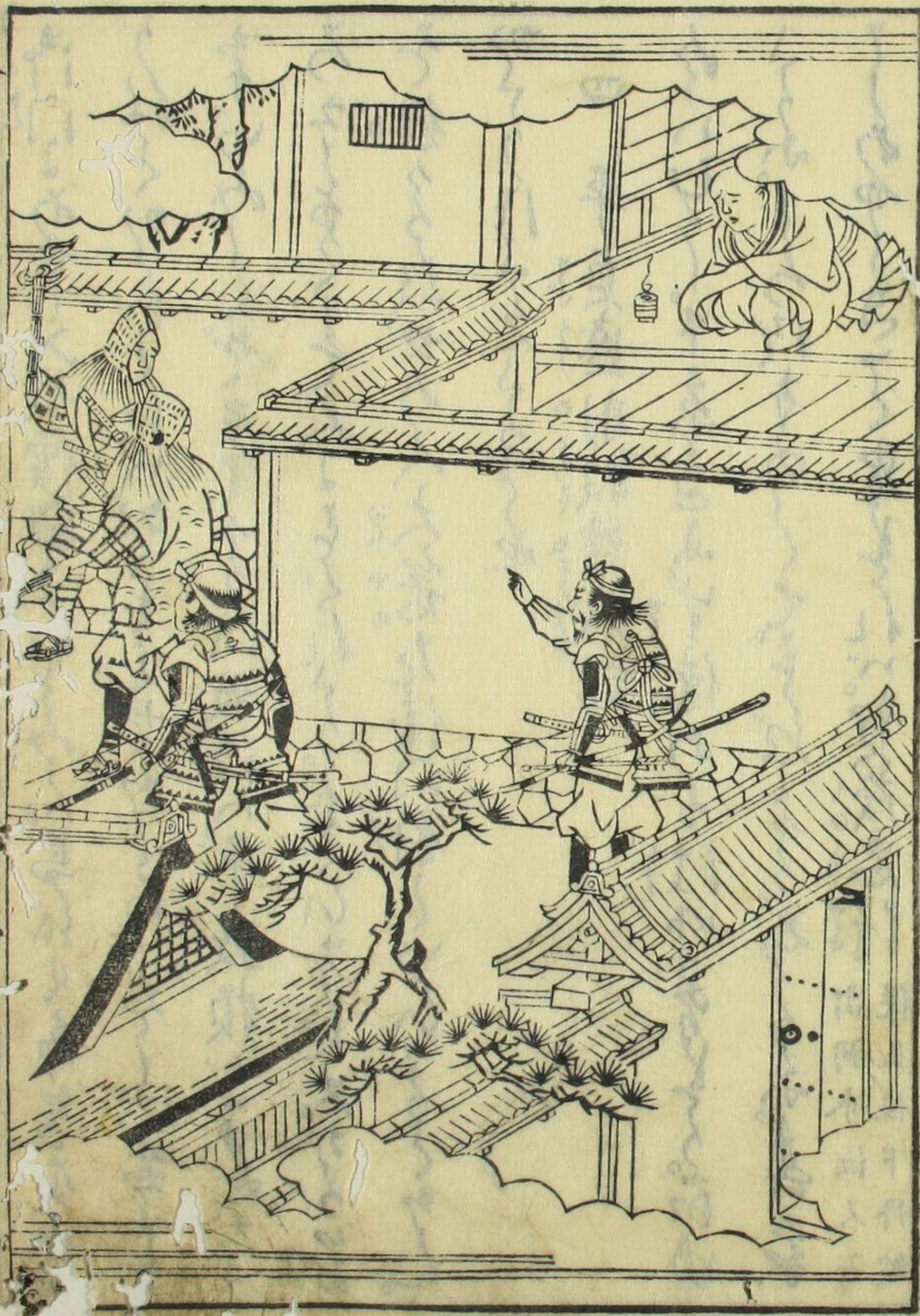
今昔物語 印明

は僧都今夜之井寺に終てある内より有り
どろがりそ〜に供せよと仰るのみ。致経其由伝
つて常女宿直あり。弓胡録をよみて。茶湯一足と見
乃下りて賤の下衆男一人をとりて。此所
よみて。禱れくろくわぎ。茶湯一足あり。胡
録うさ負て。洗馬しとまて。あま出わし。僧都
うれいそと伺り。致経とまて。傍都と井寺より
ゆくととろ人乃何来りら。ゆらひゆら。茶湯の
くや同。致経多くと歩より。あま作と。よもねれま
いそとくねら。よもまてといひ。なれば。傍都といわ中と

事うかたれ。いまが。火をさねよ。さねよ。何者
こはあ。びくろ。びくろ。人乃茶湯。あま作と。びくろ
あま。あま。僧都。これとて。あま。あま。あま。あま
ども。致経。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま
致経。茶湯。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま
して。二人。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま
くり。希有。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま
致経。何れ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま

寺物語 中 明徳

二人はくさくさい。程なく三十餘人、成りたる。備部
 こゝろみく。お中もさきさきとこれとさきで。こぢきん
 若く作多やたせのさきさきも沙汰して。さきさきお中
 くらふ。致経三十餘人、とさきさき。さきさきさきさき
 きいさき。さきさきのさきさき。さきさきさきさき
 後け郎らう多たも。お中さきさき。二人はくさくさい。さきさき
 くらひ。殿との乃の館たに一ひと町まちさきさき。さきさきさきさき。さきさき
 等ら二人は成りたる。お中馬のさきさき。さきさき。致経馬よ
 つらつら。さきさき。二人はさきさき。馬のさきさき。さきさき
 くらひ。是よりさきさきの賤男しづのわかとさきさき。さきさきさきさき
 くらひ。是よりさきさきの賤男しづのわかとさきさき。さきさきさきさき



浄土はあやしく入る僧都に驚く馬奴に郎をけり
うねくかふとれたいびくさよやわらうつをへあそ
事。つみくぞそくろ。び致経ハ平致頼が子也。う
ろきもあくとて人よとぞんしう。あぐいしたた大からあ
を射る致世乃人大衆た浄土射といさうとせん
かろうはてえとるこ也

四 平貞盛射殺盜賊語

今いじう。下系をよめ。生徳ある法師あり。あゆ
うふ。うらげきののくて。とぞよくる。あうふ。其家
しわ中もことありせん。賀茂忠行 出羽介江人子。
従五位下丹波

權 守 也。又陰陽師。比夜の性乃吉。山陰同々。其月
の具日物忌をぬくこと。盗人れあふ。今念及じよふ
づとあひたり。法師太りまげをわいさう殺す。其
月ぬ成たれば門を閉る人れあふ。いさうとあつたり。
うのうにざんたり。門をきくことあり。杉を殺す
あそえとせざりあつたり。あそふにむけ。人をあつたり
それをたれとす。固き物とてゆるといさう
けとへ平貞盛 常陸大掾國香男鎮守 府將軍陸奥守從三位 がつ。今陸奥
國よりよりうらわりとす。び貞盛ハ世僧といふ
と得意して。げのみ志。うらわりとる間あり。貞盛

平貞盛

いささかやうにぞい今陸奥國むつのちりつとては
夜ふい威いるう今夜の家いいゆさほくどさひあ家
りあるうちりけりあくめりある物ものもぞや問
僧しゆいおくちり盗人のちりふ命いのちと失うしなべりて陰
陽師いんやうしうみいさしづやそりてかて忘わすれり
答こたふ貞盛まこと園うてちりわくべ用もちをわすれよ貞盛まことをば
けりていささかやうにぞい今夜の家いいゆさほくどさひあ家
りあるうちりけりあくめりある物ものもぞや問
僧しゆいおくちり盗人のちりふ命いのちと失うしなべりて陰
陽師いんやうしうみいさしづやそりてかて忘わすれり
答こたふ貞盛まこと園うてちりわくべ用もちをわすれよ貞盛まことをば
けりていささかやうにぞい今夜の家いいゆさほくどさひあ家
りあるうちりけりあくめりある物ものもぞや問
僧しゆいおくちり盗人のちりふ命いのちと失うしなべりて陰
陽師いんやうしうみいさしづやそりてかて忘わすれり
答こたふ貞盛まこと園うてちりわくべ用もちをわすれよ貞盛まことをば

時ときふしは法師ほうしをば物忘ものわするうにせられりて奥おくふ
つれて其身みの放はなかたのうに居ゐる。念ねんふてあくる寝ねぬ
かきあおまらるうちり門かどをわと音こゑふられ。貞盛まこと見
る盗人たうじんちりんとちりて調しらべりて負おん車ぐるま宿やどぬらん
りてくし居ゐる。盗人たうじんの門かどをおりてげりて入
て。南面みなみよりちりる。貞盛まことやがて盗人たうじんの中なかにまき
りて物ものも奪うばるう方かたへけりてさだ物ものもちりた方かたは
てかきあおまらるうちり門かどをわと音こゑふられ。貞盛まこと見
る盗人たうじんちりんとちりて調しらべりて負おん車ぐるま宿やどぬらん
りてくし居ゐる。盗人たうじんの門かどをおりてげりて入
て。南面みなみよりちりる。貞盛まことやがて盗人たうじんの中なかにまき
りて物ものも奪うばるう方かたへけりてさだ物ものもちりた方かたは
てかきあおまらるうちり門かどをわと音こゑふられ。貞盛まこと見
る盗人たうじんちりんとちりて調しらべりて負おん車ぐるま宿やどぬらん
りてくし居ゐる。盗人たうじんの門かどをおりてげりて入
て。南面みなみよりちりる。貞盛まことやがて盗人たうじんの中なかにまき
りて物ものも奪うばるう方かたへけりてさだ物ものもちりた方かたは

園山(いづみ)のゆきをたてふらねに^{ゆき}死にを^{して}路かえりを^し了ゆす
 たり。路みちを^{ゆるぎ}付つ来きと^るものどしおれを^いて^おく^つり^おし^め
 死にし^る者ものありわした。疵きずと^なり^しい^づち^とい^ふの^じ
 つら^つら。か^ゝあ^らく^しつ^らき^し兵つわもの調な度え員くの^つた^る馬うま
 ぬ^き事ことつ。鞍くらの^じ郎ら名な眷げん属ぞくを^具して^よ来きたれ^る
 久ひさら^がく^る人ひとか^やく^わる^まり^しう^らぬ^んと^もぬ^んと^ぬ
 後あと者ものと^して^えん^じと^いふ^の者ものけ^しま^より^てあ^まり^ぬ
 足あしと^も疵きずと^なり^し死人しにんの^けさ^りと^しり^し馬うま
 と^いふ^やぬ^らう^らう^らぬ^り馬うまを^いし^んと^いふ^の死人しにん
 の^あり^し方かたに^あり^し馬うまも^あり^しと^いふ^があ^らう^らぬ^り馬うま
 の^あり^し方かたに^あり^し馬うまも^あり^しと^いふ^があ^らう^らぬ^り



いづれもき男の。おやどく... 春属は具...
死人は目録もて用公... 腹...
を... け...
後。死人の... 武士...
とて。死人の...
病...
を... 死人...
ゆさあぐ... 武士...
を... 刀...
あ... 通... 水干...
あ...

お着... 柳... 撥... の馬... 東の
およ... け...
ど... 三十人...
道... 水干... 矢... 杖...
と... 着... 具... の馬...
三十人... 腹...
て... 老...
れ... 水...
ら... お...
や... 水... 杖...

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

かこころをくろくもみりか。そはもやきんと感(かん)ず。
 ぐらひけき。村岡五郎平貞道源頼光 四天王 せつひんくろく
 感(かん)ず。其人(ひと)と聞(き)て。げよとつりかろく。せえける。貞道
 ひちりむろ。郎(らう)多(た)春(はる)属(ぞく)中(ちゆう)きしむ。これを知(し)り
 とびて通(と)りく。かこころ事(こと)たり。うれよ。後(ご)者(しや)を
 もの。らうく。打(う)ちあ。らうて。けさ。あ。て。う。れ。が。あ。ま
 ら。さ。れ。い。い。あ。下(げ)に。う。れ。さ。事(こと)たり。と。ん。ろ。人(ひと)安
 人(やう)人(じん)懸(けん)けり。あ。ん。諸(しよ)け。え。く。く。也(なり)。
 六(む) 上(かみ)総(そう)守(しゆ)維(い)時(じ)郎(らう)多(た)大(だい)紀(き)乃(の)小(せう)侍(じ)被(ひ)害(がい)語(ご)
 今(いま)い。上(かみ)総(そう)守(しゆ)平(へい)維(い)時(じ)朝(あ)長(なが)とい。貞(じん)盛(せい)が。縁(えん)と。

維(い)将(しやう)が。子(こ)也(なり)。く。れ。さ。れ。也(なり)。其(その)郎(らう)多(た)の。家(か)名(な)い。ち。は。字(じ)の
 大(だい)紀(き)とい。小(せう)者(しや)わ。り。長(なが)く。力(ちから)強(つよ)く。う。ら。あ。打(う)ち物の。達(た)者(しや)と。
 膽(たん)ち。く。足(あし)く。中(ちゆう)思(し)慮(り)中(ちゆう)也(なり)。弁(べん)舌(じつ)う。り。け。き。ば。か。く。ぶ。あ。の
 ち。ろ。く。ろ。見(み)に。い。り。て。維(い)時(じ)が。一(いち)郎(らう)多(た)と。て。げ。い。く。ろ。あ。
 う。い。け。大(だい)紀(き)を。君(きみ)れ。あ。り。て。同(どう)僚(れう)と。雙(すわう)陸(りく)を。あ。ろ。り。て。
 ぶ。い。ち。や。き。小(せう)侍(じ)中(ちゆう)き。ろ。ろ。見(み)物(ぶつ)と。ろ。と。大(だい)紀(き)が。い。目(め)と
 ち。く。同(どう)僚(れう)と。て。げ。い。く。ろ。あ。い。け。小(せう)男(なん)が。く。さ。て。い。ち。あ。と。
 助(すけ)言(ごん)し。け。き。大(だい)紀(き)を。い。り。て。白(しろ)告(こ)れ。和(わ)後(ご)の。か。く。と。ろ。と。
 い。い。て。小(せう)男(なん)が。睡(すい)を。筒(つ)尻(しり)と。突(つ)き。い。づ。ま。て。泣(な)く。ま。り。
 又(また)い。ぐ。大(だい)紀(き)が。親(おや)と。突(つ)き。い。づ。ま。て。泣(な)く。ま。り。
 強(つよ)力(ちから)の。者(しや)とい。た。い。い。い。

今昔物語(和事) 卷之十一

ざれば作まのてはふいと。ふれいふか刀と引抜て。大紀の
乳のどほつとある。カを引抜げあぐる。おげてひく。雙陸
の相ももうつとある。こち得ざりたり。大紀の大軍のあ
をつとある。いづるううてみふたり。其の一家れきた方
のちこりたがは。跡をうへて失のち。けい男が影い
大紀がゆいす。あはるは。りよ。かく。やく。やく。やく。やく。
る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。る。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

今昔物語八



